

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2001-089921  
 (43)Date of publication of application : 03.04.2001

(51)Int.Cl.

A41G 3/00

(21)Application number : 11-264131

(71)Applicant : PURORIA:KK

(22)Date of filing : 17.09.1999

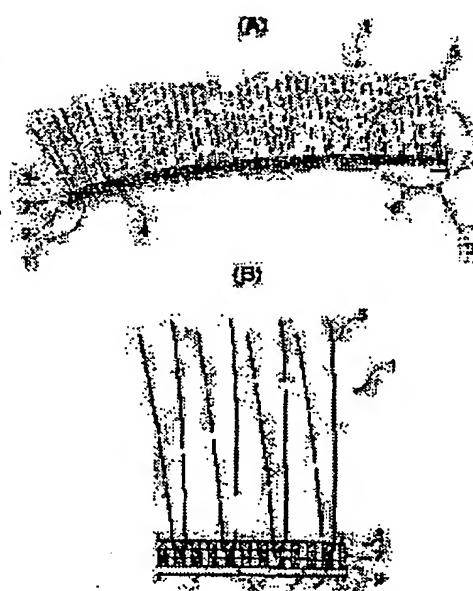
(72)Inventor : HOCHI HIROSHI

## (54) DISPOSABLE WIG

## (57)Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To obtain a disposable wig usable in the same feeling as that of user's own for a fixed time.

**SOLUTION:** This disposable wig is obtained by planting hair 5 on a thin film-like base 3 formed into a fixed shape, spraying the back of the base 3 with an adhesive 7a to fix a base end part 6 of the hair 5 to the base 3 and is provided with an adhesive layer 10 to be stuck to the scalp.



## EGAL STATUS

[Date of request for examination] 02.08.2000

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 3484565

[Date of registration] 24.10.2003

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C) 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (JP)

## (12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-89921

(P2001-89921A)

(43) 公開日 平成13年4月3日 (2001.4.3)

(51) Int.Cl.

A 41 G 3/00

識別記号

F I

A 41 G 3/00

テ-レコ-ド(参考)

Z

審査請求 有 請求項の数9 O.L (全5頁)

(21) 出願番号 特願平11-264131

(22) 出願日 平成11年9月17日 (1999.9.17)

(71) 出願人 592191896

株式会社プロピア

東京都新宿区西新宿7丁目4番3号 升本  
ビルB1

(72) 発明者 保知 宏

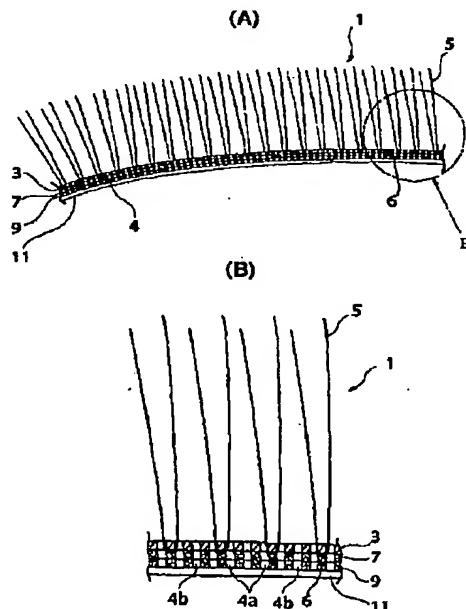
東京都新宿区西新宿7丁目4番3号 株式  
会社プロピア内

(74) 代理人 100078949

弁理士 渡野 勝美

(54) 【発明の名称】 使い捨て用かつら

## (57) 【要約】

【課題】 一定期間自分の毛と変わらぬ感覚で使用する  
ことができる使い捨て用かつらを供すること。【解決手段】 所定形状に形成した薄皮状のベース3に  
毛5を植設し、該ベース3の裏面に接着剤7aをスプレーし上記毛5の基端部6をベース3に固定する。さらに  
頭皮に貼着するための接着層10を形成する。

(2)

特開2001-89921

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 所定形状に形成した薄皮状のベースに毛を植設し、該ベースの裏面に接着剤を付けて上記毛の基端部をベースに固定し、さらに頭皮に貼着するための接着層を形成したことを特徴とする使い捨て用かつら。

【請求項2】 請求項1記載の使い捨て用かつらにおいて、上記接着層は2層からなり、第1の接着層は上記ベースの裏面に上記毛の基端部を固定し、第2の接着層は第1の接着層の上に頭皮を貼着するために形成されることを特徴とする使い捨て用かつら。

【請求項3】 請求項1記載の使い捨て用かつらにおいて、上記接着層を裏面全面に形成することを特徴とする使い捨て用かつら。

【請求項4】 請求項1記載の使い捨て用かつらにおいて、上記接着層を裏面の周縁部にのみ形成することを特徴とする使い捨て用かつら。

【請求項5】 請求項1記載の使い捨て用かつらにおいて、上記ベースを半球状に形成することを特徴とする使い捨て用かつら。

【請求項6】 請求項1記載の使い捨て用かつらにおいて、上記毛が人毛であることを特徴とする使い捨て用かつら。

【請求項7】 請求項1記載の使い捨て用かつらにおいて、上記毛が人工毛であることを特徴とする使い捨て用かつら。

【請求項8】 請求項1記載の使い捨て用かつらにおいて、上記毛の植設が単一植毛であることを特徴とする使い捨て用かつら。

【請求項9】 請求項1記載の使い捨て用かつらにおいて、上記毛の植設がV型植毛であることを特徴とする使い捨て用かつら。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】 本願発明は、かつらに関し、とくに一定期間使用したら廃棄する使い捨て用かつらに関する。

## 【0002】

【従来の技術】 かつらはベースに人毛又は人工毛を植設し頭部に載置固定するものであり、頭髪の全部又は一部を補うために用いられている。

【0003】 従来のかつらは、人工毛からなる場合長期にわたって使用していると、例えばブラッシングによる劣化現象(いわゆる「コシ」がなくなる)があり、いかにも「かつら」然となって外観上自然毛と見分けがつき易くなるという欠点があった。また、人毛からなるかつらであっても紫外線等により褪色するという欠点があった。なお、自然に生えている毛の場合は新陳代謝により新しい毛が生えてくるためこのようなことはない。

【0004】 さらに、従来のかつらは頭部に載っているため、例えば頭部をたたかれると音がしたり、落下を気

にするということになり、使用者にとって精神的に不安があるという欠点があった。

【0005】 さらにまた、各人ごとに手づくりをするため手間と時間がかかり、高コストであるという欠点もあった。

## 【0006】

【発明が解決しようとする課題】 本願発明は上記欠点を解消することを目的とする。即ち、本願発明は一定期間自分の毛と変わらぬ感覚で使用することができる使い捨て用かつらを供することを目的とする。

## 【0007】

【課題を解決するための手段】 本願発明は、上記目的達成のためになされたもので、所定形状に形成した薄皮状のベースに毛を植設し、該ベースの裏面に接着剤を付けて上記毛の基端部をベースに固定し、さらに頭皮に貼着するための接着層を形成したことを特徴とする。また請求項1記載の使い捨て用かつらにおいて、上記接着層は2層からなり、第1の接着層は上記ベースの裏面に上記毛の基端部を固定し、第2の接着層は第1の接着層の上に頭皮を貼着するために形成されることを特徴とする。また請求項1記載の使い捨て用かつらにおいて、上記接着層を裏面全面に形成することを特徴とする。また請求項1記載の使い捨て用かつらにおいて、上記接着層を裏面の周縁部にのみ形成することを特徴とする。また請求項1記載の使い捨て用かつらにおいて、上記ベースを半球状に形成することを特徴とする。また請求項1記載の使い捨て用かつらにおいて、上記毛が人毛または人工毛であることを特徴とする。また請求項1記載の使い捨て用かつらにおいて、上記毛の植設が単一植毛またはV型植毛であることを特徴とする。

## 【0008】

【発明の実施の形態】 次に、実施の一形態を示す図1乃至図4に基づき本願発明による使い捨て用かつらをさらに詳しく説明する。

【0009】 本願発明によるかつら1は、適宜材からなる薄皮状のベース3と、該ベース3に植設された毛5と、該ベース3の裏面に形成され上記毛5の基端部6を固定する第1接着層7と、該第1接着層7の裏面全面に形成され頭皮に貼付される第2接着層9と、該第2接着層9に剥離可能に貼付されるセバレータ11とからなる。上記ベース3は例えば医療用人工皮膚、ポリウレタンの如き素材と直鎖脂肪族ポリアミド(登録商標ナイロン)製ネットの如きものとの二層構造からなり、例えば半球状に形成しておく。ベース3の厚さは例えば0.03mmと超薄手となっている。またベース3には多数の微小孔が突設されており、このうちの一部の孔(植設孔)4aに毛5が植設され、他は通気孔4bとなっている。毛5は1本ずつ植設されており、素材は人毛であっても人工毛であってもよい。

【0010】 植毛について図4に示すV型植毛を例にし

(3)

特開2001-89921

て説明する。毛5の植設はベース3が薄皮状からなるためこれを引張って微小孔（植設孔4a）を拡大しておいてから、毛5を図示しない植毛機によりベース3の裏面側から表面側に引っ張り上げる。次いで表面側に突出した毛5を隣接する微小孔（植設孔4a）より裏面側に挿入する。かかる作業を連続して行い、毛5を連続状に縫うようにして植設後、図4に示す所望の長さに切断することにより、植設が終了する（図4A）。次いで隣接する植設孔4a間にまたがった基端部6に速乾性の接着剤7aを吹付け第1接着層7を形成する（図4B）。第1接着層7の固化により基端部6がベース3に固定すると毛5がベース3より抜けなくなる。次いで、第1接着層7の上より粘着物からなる接着剤9aを吹付け第2接着層9を形成する（図4C）。第2接着層9は、図2に示すように、ベース3の裏面の全面に形成する。上記において、第1接着層7及び第2接着層9はスプレーにより形成するため、吹き付けられる接着剤7a及び接着剤9aは細粒状であり、通気孔4bは塞がらない。即ち、植設孔4aは毛5が植設されておりこの毛5により接着剤7a及び接着剤9aを捕捉するが、通気孔4bには毛5が植設されていないため接着剤7a及び接着剤9aは捕捉されずに通過する。かくして毛5の植設及び接着層の形成終了後、第2接着層9の上にセパレータ11を貼付して出来上がる（図3）。

【0011】本願発明による使い捨て用かつらの使用は、頭皮を洗浄して油脂分を除去した後、セパレータ11を剥がして第2接着層9の全面を頭皮に直接貼付することにより行う。かつら1を頭皮に固定した後の整髪は自在である。

【0012】上記した実施の形態による使い捨て用かつらにおいては、毛5が劣化してから頭皮より剥して捨てればよいから、使用による「コシ」のなくなり、紫外線等による褪色といった劣化現象がない。

【0013】また頭皮にベース3の裏面全面（第2接着層9）をしっかりと固着して使用するため、頭皮との間に隙間がなく、頭をたたいても音はしない。よって、使用者の精神的な不安の生ずる余地がない。

【0014】また薄皮状の素材で半球状にしてあるため、頭部の多少の形状の差にも適合可能である。

【0015】またベース3が薄皮状の素材からなるため、人体との一体化を図ることができ、頭皮に固着すると生え際がほとんど判らないという効果がある。

【0016】また適宜にカットして使えば、頭部の必要部位（例えば頭髪のないところや頭髪の薄いところ）にのみ用いることができるから、自然毛との親和性が大となり違和感が小となる効果がある。

【0017】またベース3が薄皮状の素材からなりかつ通気孔4bがあるため頭部の熱が逃げるので、長時間貼付していても搔痒感がない。仮りに頭が搔痒くなってしまい、ベースが薄皮状の素材からなるため、頭を搔くこと

ができる。さらに、ベース3の全面を頭皮に貼着してあるため不測に剥離することができないので、洗髪が可能であり、プールに入ることもできる。

【0018】また、植設された毛5の基端部6を第1接着層7によって固定することにより、従来手作業であった植毛を機械化することができる。

【0019】さらに、本願発明による使い捨て用かつらは劣化してから使い捨てるものであるから、植毛に際し1本植えとすることができ、これにより自然な感じの毛に演出することができる。即ち、植毛は1本植えとすることが理想的なのがあるが、1本植えとすると使用しているうちにブラッシング等により根本より折れ、これが次第に広がって円形脱毛症の様になることがある。よって、従来は分け目部分とつむじ部分のように外観上目立つ部分のみを1本植えとし、その余の部分は毛5を数本まとめて植設し耐久性を与えていた。しかし、このようにすると自然毛の生え方とは異なるため、その分より「かつら」然となって外観上自然毛と見分けがつき易くなるという欠点があったのである。

【0020】本願発明は上記した実施の形態に限定されることはない。例えば、植毛方法は任意である。上記した実施の形態はいわゆるV型植毛の一種であるが、図5に示すように、毛5を1本ずつ単一の植設孔4aにベース3の裏面より挿入するいわゆるI型植毛であってもよい。この場合は毛5の基端部6を加熱等により膨大としてベース3の裏面に固定する。

【0021】また、ベース3の形状は任意であり、立体状にせず、平面状としてもよい。

【0022】また、ベース3の素材も任意である。

【0023】また、図6に示すように第2接着層9をベース3の裏面の周縁部のみに形成することも可能である。

【0024】さらに、ベース3の通気孔4bがない場合も考えられる。これは鉗創膏代わりに用いて、例えばやけどの跡かくしに用いることができる。

【0025】

【発明の効果】本願発明による使い捨て用かつらによれば、一定期間自分の毛と変わらぬ感覚で使用することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本願発明による使い捨て用かつらの一実施の形態を示す斜視図である。

【図2】図1の裏面図である。

【図3】図1のIII部の拡大縦断面図である。

【図4】本願発明による毛の植設工程を示す図である。

【図5】本願発明による使い捨て用かつらの他の実施の形態を示す拡大縦断面図である。

【図6】本願発明による使い捨て用かつらのさらに他の実施の形態を示す裏面図である。

【符号の説明】

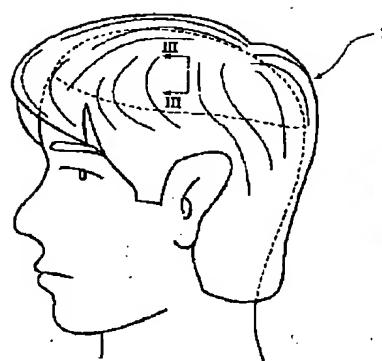
(4)

特開2001-89921

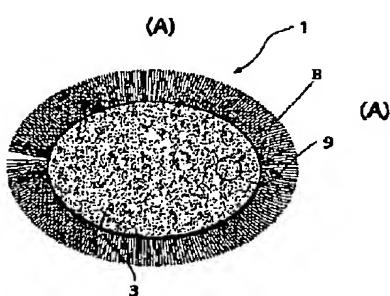
1 かつら  
 3 ベース  
 4 a 植設孔  
 4 b 通気孔  
 5 毛  
 6 基端部

7 第1接着層  
 7 a 接着剤  
 9 第2接着層  
 9 a 接着剤  
 10 接着層  
 11 セパレータ

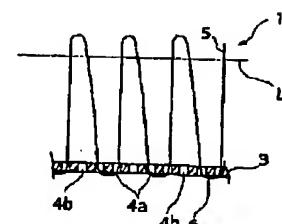
【図1】



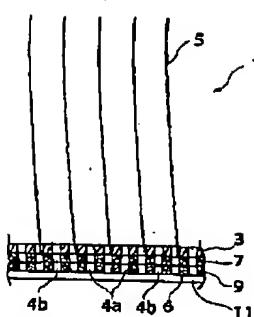
【図2】



【図4】



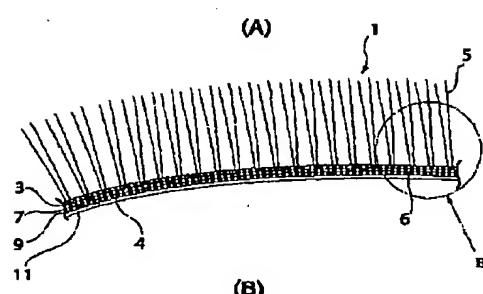
【図5】



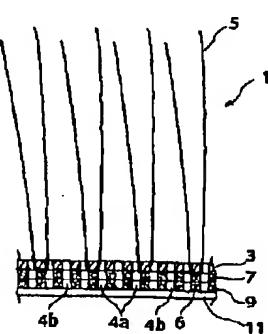
(5)

特開2001-89921

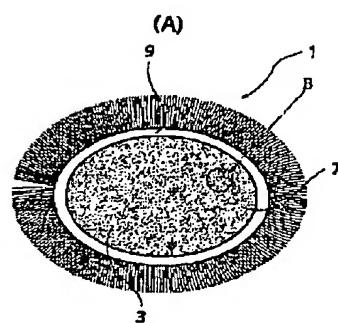
【図3】



(B)



【図6】



(B)

